第18回関東 MIST 研究会

プログラム抄録集

会期：2024年3月9日（土）

会場：JPタワー　ホール＆カンファレンス

当番世話人：竹内　大作
（那須赤十字病院　整形外科）

ご挨拶

第18回関東MIST研究会を開催させていただきます、当番世話人の竹内大作です。今回は「MISTの裾野を北関東に拡げる」をテーマに考えており、北関東からも多数参加いただく予定です。オープニングには北関東セミナー powered by ZimVieと称して、北関東3県の代表の先生がた（群馬・石原慎一先生、栃木・髙田知史先生、茨城・三浦紘世先生）にそれぞれ得意分野をミニレクチャーいただきます。

一般演題は9題の応募をいただきました。頚椎から骨盤、インストゥルメンテーションから保存療法まで、幅広いテーマで議論できる内容です。また、僭越ながら会長講演（というほどでもありませんが）として冒頭に10分ほど頂戴して日本赤十字社救護班として派遣された能登半島の現状についてお話したいと思います。

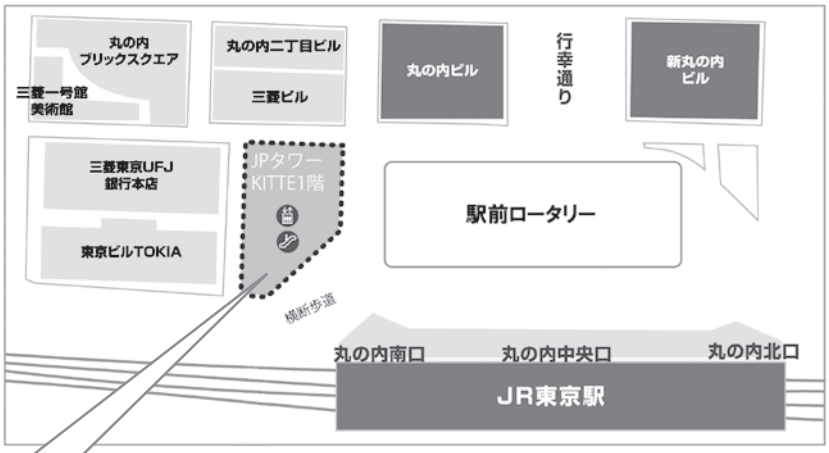
特別講演は豪華3本立てでお送りします。トップバッターは私が会長をやるうえで外せない恩師のおひとり、野原裕・獨協医大名誉教授です。インプラントや診断機器のない時代（MRIはおろかCTもなく断層撮影の時代、そして学生時代は心電図すらなかったそうです！）から最前線を駆け抜けてこられた先生ならではの、歴史的講演をお願いしております。そして2本目は神戸赤十字病院の伊藤康夫先生。赤十字の大先輩でもあり、外傷からMISTに入った私の目標でもあります。これどうすんの？ と足のすくむような修羅場をくぐり抜けて来られた先生ならではの講演をお願いしております。大トリは苑田第三病院の星野雅洋先生にお願いしております。日本のMISTの先駆者で本会の発起人でもある星野先生は今年度で本会の世話人会を卒業されます。今後MISTを引っ張っていくであろう若手へのエールとなる、卒業記念講演をいただきます。

会の終わりには懇親会・情報交換会を用意しております。時間の許す限りお残りいただき、低侵襲脊椎治療の未来について語り明かしましょう。

第18回関東MIST研究会
当番世話人：竹内　大作
（那須赤十字病院整形外科）

会場案内図

東京駅丸の内南口(地上)からのアクセス



地上または地下からJPタワーKITTEの建物に入りましたら、左手エレベーターもしくはエスカレーターをご利用ください。右手奥にもエスタレーターがありますが、これは4階、5階へは行きません。

会場

JPタワー　ホール＆カンファレンス　4階　ホール1,2

住所：〒100-7004　東京都千代田区丸の内2-7-2 KITTE

JR東京駅 徒歩約1分 丸の内線東京駅 地下道より直結
千代田線二重橋前〈丸の内〉駅 徒歩約2分
三田線大手町駅 徒歩約4分　JR京葉線東京駅 徒歩約3分
有楽町線有楽町駅 徒歩約6分
JR有楽町駅 徒歩約6分

お願い

参加受付

12:30より受付を開始します。参加費1,000円をお支払いください。

演者の方へ

- 一般演題の発表時間は発表5分、質疑応答3分です。
- 発表形式はPCのみです。PC対応プロジェクター 1台をご用意いたします。
- 静止画でのご発表データを研究会準備のPCに取り込ませていただきますので、USBメモリーをご持参ください。
- 作成するソフトはマイクロソフト社のPower Pointで2019以降のバージョンに限ります。
- 発表データに動画がある場合や、Macintoshをご使用の場合は、ご自身のPCをご利用ください。※ACアダプタは必ずご持参ください。
- 映像接続ケーブルはD-sub15ピン（ミニ）とHDMIを準備しております。それ以外をご利用の場合は変換コネクタを忘れずにお持ちください。

日整会の単位について

特別講演1、2、3は、日本整形外科学会教育研修単位に認定されております。1 講演につき、専門医資格継続単位 1 単位（N）、脊椎脊髄病医資格継続単位（SS）のいずれかを取得できます。

【申込方法】

- 聴講は自由ですが、研修単位を必要とする場合に限り、参加受付にて教育研修講演受講料（1講演につき1,000円）をお支払いください。

【受講（聴講）時の手続き】

- 講演開始10分前から開始後10分までに、日整会IC会員カードを講演会場入口のカードリーダーにかざして出席登録を行ってください。10分を過ぎた場合や手続きが完了していない場合、途中退場された場合は、単位取得はできません。
- 学会終了から10日程度で、日整会ホームページの取得単位確認画面の単位振替システムでご自身の取得状況を確認できます。
- 研修手帳をお持ちの方も、日整会IC会員カードで受講登録を行うため、日本整形外科学会ホームページの会員専用画面の単位取得履歴に記録が残ります。このため、研修医手帳に受講証明印を受ける必要はありません。研修医手帳には、該当する分野のページに必要事項を記入し、受講証明印の欄に「会員カード」または「HP参照」と記入してください。更新時には、日本整形外科学会ホームページ上の取得履歴と照合します。当日の受講登録方法については、専門医と同様に会員ICカードで手続きを行ってください。

関東MIST研究会　役員名簿

代表世話人
日方　智宏（北里大学／北里研究所病院）

世話人
新井　嘉容（埼玉県済生会川口総合病院）
石井　　賢（New Spineクリニック東京、慶應義塾大学）
石川　哲大（さんむ医療センター）
磯貝　宜弘（国際医療福祉大学三田病院）
大下　優介（昭和大学横浜市北部病院）
大島　　寧（東京大学）
大森　一生（日本鋼管病院）
岡田英二朗（せたがや岡田整形外科）
小野孝一郎（日本医科大学）
金子　康仁（けいゆう病院）
工藤　理史（昭和大学）
小島　　敦（船橋整形外科病院）
小林　俊介（埼玉慈恵病院）
坂井顕一郎（済生会川口総合病院）
塩野　雄太（調布くびと腰の整形外科クリニック）
篠原　　光（東京慈恵会医科大学）
高野　裕一（稲波脊椎・関節病院）
竹内　大作（那須赤十字病院）
竹内　拓海（杏林大学）
鳥越　一郎（横浜市立みなと赤十字病院）
野尻　英俊（順天堂大学）
檜山　明彦（東海大学）
福島　成欣（虎の門病院）
船尾　陽生（国際医療福祉大学成田病院・三田病院）
星野　雅洋（苑田会東京脊椎脊髄病センター）
松川啓太朗（村山医療センター）
真鍋　　和（東前橋整形外科病院）
三浦　紘世（筑波大学）
水谷　　潤（東京女子医科大学八千代医療センター）
南出　晃人（獨協医科大学日光医療センター）
宮下　智大（松戸市総合医療センター）
和田　明人（東邦大学）

第18回関東MIST研究会　当番世話人（会長）　竹内 大作

那須赤十字病院　整形外科
〒324-8686大田原市中田原1081番地4

協賛企業一覧

旭化成ファーマ株式会社
アムジェン株式会社
グローバスメディカル株式会社
シーメンスヘルスケア株式会社
ジョンソン・エンド・ジョンソン株式会社
ジンヴィ・ジャパン合同会社
帝人ナカシマメディカル株式会社
帝人ヘルスケア株式会社
ニューベイシブジャパン株式会社
日本ストライカー株式会社
バクスター株式会社
メドトロニックソファモアダネック株式会社
株式会社ロバート・リード商会

（50音順）

プログラム

13:00 ～ 13:50

北関東セミナー powered by ZimVie

共催：ジンヴィ・ジャパン合同会社

座長：南出　晃人（獨協医科大学日光医療センター）

1.「新規パワーツールを用いた椎弓根スクリュー挿入のメリットについて」
石原　慎一
（SUBARU 健康保険組合　太田記念病院）

2.「エコーで切り開く頚椎診療革命―保存治療から手術まで―」
髙田　知史
（獨協医科大学　整形外科）

3.「成人脊柱変形治療における三次元歩行動作解析による動的な脊椎バランス評価の試み」
三浦　紘世
（筑波大学医学医療系　整形外科）

13:55 ～ 15:15

一般演題

座長：塩野　雄太（調布くびと腰の整形外科クリニック）
檜山　明彦（東海大学　整形外科）

1. Opening address
「能登半島の現状～日本赤十字社救護班報告」
竹内　大作
（第 18 回関東 MIST 研究会当番世話人・那須赤十字病院　整形外科）

2.「転移性脊椎腫瘍に対する BKP」
福武　勝典、中村　一将、長谷川　敬二、和田　明人、高橋　寛
（東邦大学　整形外科）

3.「内視鏡下腰椎側方椎体間固定術（MELIF）の間接除圧による早期治療成績：LLIF との比較」
大江　真人[1]、南出　晃人[1]、種市　洋[2]
（1. 獨協医科大学日光医療センター　脊椎センター、2. 獨協医科大学　整形外科）

4.「超高齢者における内視鏡下脊椎手術の検討」
福武　勝典、中村　一将、長谷川　敬二、和田　明人、高橋　寛
（東邦大学　整形外科）

5.「股関節屈曲拘縮により手術に難渋したDISHに伴う胸腰椎骨折の１例」

鮫島　基彰、鳥越　一郎、谷山　崇、大川　淳
（横浜市立みなと赤十字病院　整形外科）

6.「S1AI, S2AI screw固定により治療した脆弱性骨盤輪骨折の１例」

今野　雄太、高野　盛登、河合　桃太郎、日方　智宏
（北里大学北里研究所病院　整形外科　脊椎センター）

7.「頚椎後縦靭帯骨化症に対してO-armナビゲーション下にPVFSを用いて、後方徐圧固定術を行った症例」

柴尾　洋介[1]、三浦　紘世[2]、高橋　宏[2]、船山　徹[2]、國府田　正雄[2]、山崎　正志[2]
（1.茨城県西部メディカルセンター、2.筑波大学　整形外科）

8.「成人期まで遺残した先天性筋性斜頸の手術治療成績－上下端切腱術と下端切腱術の比較－」

船尾　陽生[1]、磯貝　宜広[2]、水越　諒[1]、藤田　成人[1]、江幡　重人[1]、石井　賢[3]、八木　満[1]
（1.国際医療福祉大学成田病院　整形外科、2.国際医療福祉大学三田病院　整形外科、
3.New Spine クリニック東京）

9.「小児環椎後頭骨脱臼に対してハローベストでの加療後に脊髄症状が悪化し最終的に後方固定術を要した１例」

磯貝　宜広[1]、Shah Suken[2]
（1.国際医療福祉大学　整形外科、
2.Department of Orthopaedic Surgery, Nemours Children's Hospital）

10.「頚椎後方除圧制動術の試み―志半ば―」

坂井　顕一郎[1]、新井　嘉容[1]、沼野　藤希[1]、友利　正樹[1]、榊　経平[1]、小沼　博明[1]、
吉井　俊貴[2]
（1.済生会川口総合病院　整形外科、2.東京医科歯科大学　整形外科）

15:20 ～ 16:20

特別講演1

共催：ジョンソン・エンド・ジョンソン株式会社

座長：野尻　英俊（順天堂大学医学部　整形外科学講座／
順天堂大学医学部附属順天堂医院　脊椎脊髄センター）

「温故知新：脊椎インストゥルメンテーション登場前後の脊椎外科から」

野原　裕

（レイクタウン整形外科病院　顧問／獨協医科大学　整形外科学　名誉教授）

［N-7］［SS］

16:25 ～ 17:25

特別講演2

共催：旭化成ファーマ株式会社

座長：竹内　大作（那須赤十字病院　整形外科）

「高エネルギー外傷による脊椎・骨盤損傷に対する治療戦略
－骨粗鬆症を伴う脊椎・骨盤外傷も含めて－」

伊藤　康夫

（神戸赤十字病院　整形外科、脊椎・四肢外傷センター）

［N-2］［N-11］［SS］

17:30 ～ 18:30

特別講演3

共催：帝人ヘルスケア株式会社

座長：日方　智宏（北里大学医学部　整形外科／
北里研究所病院　整形外科、脊椎センター）

「非脊椎専門医へ伝えたい－骨粗鬆症性椎体骨折の診断と早期外科的治療－」

星野　雅洋

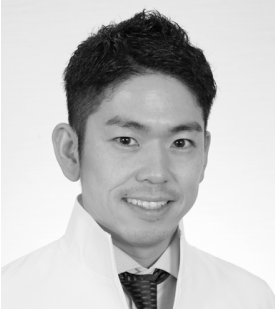
（医療法人苑田会苑田第三病院 / 苑田会東京脊椎脊髄病センター）

［N-4］［N-7］［SS］

18:30 ～ 18:35

閉会挨拶

次期当番世話人（会長）：新井　嘉容（埼玉県済生会川口総合病院）



「新規パワーツールを用いた椎弓根スクリュー挿入のメリットについて」

石原　慎一
SUBARU健康保険組合　太田記念病院

脊椎インストゥルメンテーション手術において椎弓根スクリューの登場により手術成績が飛躍的に向上し、椎弓根スクリュー挿入は脊椎外科医にとって必須の技術となっている。スクリュー挿入方法は経皮的椎弓根スクリューの登場により、正確に、より低侵襲に挿入することが可能となったが、スクリューの挿入自体は用手的に行われているのが一般的であり、手術件数や固定範囲が多くなるとオーバーユースによる術者への負担も見逃すことはできない。外傷や人工関節領域においては術者への疲労軽減のため、パワーツールが用いられるのが一般的である。一方、脊椎領域においては安全性への懸念のためパワーツールの導入が遅れていたが、近年になって安全に使用できるパワーツールが開発された。パワーツールの使用によりオーバーユースを防ぐことができることに加えて、刺入精度の向上や引き抜き強度の向上などに関する報告も散見されるようになり、パワーツールを導入するメリットは大きいと考えている。本セミナーでは演者の使用経験を基に、新規パワーツールの優位性、また手術中の注意点について述べさせていただく。

石原　慎一（いしはら　しんいち）

生年月日：1980年8月
現勤務先：SUBARU健康保険組合　太田記念病院

学歴・職歴：
1999年 4月-2005年3月：　大阪大学医学部医学科
2005年 4月-2007年3月：　堺医療センター　初期研修医
2007年 4月-2010年3月：　都立広尾病院救命センター　シニアレジデント
2010年 4月-2013年3月：　江戸川病院整形外科
2013年 4月-2013年9月：　慶應大学病院整形外科
2013年10月-2018年3月：　国際医療福祉大学三田病院　脊椎脊髄センター
2018年 4月-：　SUBARU健康保険組合　太田記念病院

資格：
2009年　日本内科学会認定内科医
2016年　日本整形外科学会専門医
2018年　脊椎脊髄病学会指導医
2018年　慶應義塾大学医学博士

賞罰
2016年　先進脊椎外科研究会　優秀演題賞
2023年　関東MIST学会　Best presentation award

所属学会：
日本整形外科学会
日本脊椎脊髄病学会
日本MISt学会
日本低侵襲脊椎脊髄外科学会
日本腰痛学会
日本脊椎インストゥルメンテーション学会
東日本整形災害外科学会

「エコーで切り開く頚椎診療革命―保存治療から手術まで―」

髙田　知史
獨協医科大学　整形外科

従来の脊椎疾患への注射といえば透視で行う注射が一般的であった。エコーを使用することで神経を始めとした軟部組織を観察できるようになった。それにより従来ではできなかった、より正確な注射が可能となった。エコーガイド下注射の正確性を利用し、同じ神経に注射する際も高位を変更し、意図した高位で神経に注射を行っている。また、詳細な解剖が観察できるため注射経路にある危険を回避する術、注射法のバリエーションが出現した。
対象は頚椎神経根だけではなく、椎間関節、椎間板も対象とすることが可能となる。それにより頚部痛へのアプローチも大きく変化している。
またこれらの保存治療だけでなく術中にもエコーは有用である。リアルタイムに評価ができることがエコーの利点であるが、一方でエコーは骨を透過できない欠点がある。この欠点を補う可能性を秘めているのがMRI/CT fusion機能である。これはエコープローブの位置情報を認識させ、同じ断面をMRI/CTの画像でリアルタイムに確認できる方法である。この技術を応用し術中に主に椎弓形成術と共に行う椎間孔拡大術を行う際に使用している。これにより骨切除量を従来よりも正確に確認しながら行うことができる。今回現時点での治療成績を提示する。

髙田　知史（たかだ　さとし）

1988年6月生まれ

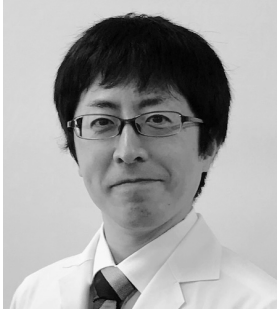
2014年　東京慈恵会医科大学卒業
2014年-　亀田総合病院にて初期研修
2016年-　整形外科後期研修
2020年-　獨協医科大学整形外科　脊柱班に入局
現在に至る

役職
先進整形外科エコー研究会（SMAP）世話人
日本整形外科超音波学会　幹事

所属学会
日本整形外科学会
関東整形災害学会
東日本整形外科学会

日本脊椎脊髄病学会
日本側弯症学会
日本脊椎インストゥルメンテーション学会
日本腰痛学会
日本成人脊柱変形学会

日本整形外科超音波学会
日本超音波学会
日本区域麻酔学会
日本ペインクリニック学会



「成人脊柱変形治療における三次元歩行動作解析による動的な脊椎バランス評価の試み」

三浦　紘世
筑波大学医学医療系　整形外科

成人脊柱変形の治療において全脊椎単純X線アライメントによるパラメータ計測が広く用いられているが、一時の立位の姿勢の評価にすぎないため、実際にバランス障害が悪化する歩行時の動的な脊椎骨盤バランスの評価を加えることも臨床的に重要と考えている。バランス異常を主訴とする成人脊柱変形症例では、全脊椎単純X線撮影時には機能している立位静止時の代償機構が、連続歩行負荷により破綻するため長時間連続歩行後に立位とは異なる姿勢を呈する。

そこで、当科では附属病院に併設された未来医工融合研究センターにおいてVICONによる三次元位置推定とワイヤレス筋電図の測定を歩行中に同時に行い、時相を同期させて長時間歩行時の脊椎骨盤バランスと筋活動を動的に定量的に解析することを特徴とする三次元歩行動作解析を行ってきた。その結果、成人脊柱変形では、歩行負荷によって脊椎矢状面バランスが経時的に悪化することが明らかとなり、その歩行による動的な変化と、脊柱起立筋の脂肪変性の程度や、矯正術後のPJK発生との関連が示唆された。歩行時にバランスを保とうとする代償機能の破綻を我々の三次元歩行動作解析によってダイナミックに評価できていると考えられた。

また、胸腰椎の脊柱変形だけではなく首下がり症候群など頚椎後弯変形においても本歩行動作解析による評価を行ってきた。連続歩行により頚椎と胸椎の前傾が増加することで首下がりが悪化することが明らかとなり、首下がりに対する胸腰椎での代償の程度が歩行時の矢状面バランス変化と関連があることが示唆された。

三次元歩行動作解析によって捉えた脊柱変形症例の個々の代償の違いを考慮することで、矯正手術戦略の選択の一助となる可能性があると考えている。本講演ではこれまでの研究結果をもとに、成人脊柱変形治療における三次元歩行動作解析による定量的な脊椎バランスの動的評価の詳細や、新たに取り組んでいる人工知能を応用した歩行動作解析の試みについて報告する。

三浦　紘世（みうら　こうせい）

2008年 3月 筑波大学医学専門学群 卒業
2008年 4月 筑波メディカルセンター病院研修医
2010年 4月 筑波大学医学医療系整形外科入局
2010年 4月 関連病院にて研修
2015年 4月 筑波大学人間総合科学研究科疾患制御医学専攻　入学
2017年11月 筑波大学医学医療系整形外科運動器再生医療学寄付講座助教
2018年 5月 筑波大学附属病院リハビリテーション部病院助教
2019年 3月 筑波大学人間総合科学研究科疾患制御医学専攻 修了
2019年 4月 筑波大学附属病院リハビリテーション部病院講師
2021年 6月 筑波大学医学医療系整形外科講師（現職）
＜専門＞整形外科（脊椎脊髄）
＜所属学会＞日本整形外科学会、日本脊椎脊髄病学会、日本脊椎インストゥルメンテーション学会、MIST学会、日本脊髄障害医学会、日本成人脊柱変形学会、関東整形災害外科学会、国際頚椎学会日本機構、Asia Pacific Spine Society Life member、Asia Pacific Orthopaedic Association Life member
＜受賞歴＞
1. 日独整形災害外科学会　令和４年度フェローシッププログラム, Germany, 2022
2. 第29回脊椎インストルゥメンテーション学会小野村敏信 Presentation Award 最優秀口演賞, 2020
3. 公益財団法人整形災害外科学研究助成財団　令和2年度(第46回) 研究助成 鈴木賞
4. 日本脊椎脊髄病学会第14回Asia Traveling Fellowship program, Hong Kong, Vietnam, 2019
5. 第28回脊椎インストルゥメンテーション学会小野村敏信 Presentation Award 最優秀口演賞, 2019

特別講演1

「温故知新：
脊椎インストゥルメンテーション登場前後の脊椎外科から」

野原　裕
レイクタウン整形外科病院　顧問／
獨協医科大学　整形外科学　名誉教授

私が医師になった当時50年前であるが、当時の脊椎外科は、手術で良好な成績を得ることが困難な時代から現在の隆盛へと発展する黎明期であった。その時代にあっては、治療成績が最も重要で、手術侵襲は二の次でもあった。しかし、現在のような診断機器（CT・MRIほか）はなく、病態の解明や診断も不完全な時代でもあった。従って詳細な問診と診察から病態の模索・判断から診断したのである。経験豊富な先人の著した教科書は大いに参考となり、また全てが真実と信じられた時代でもあった。手術機器もあまりなく、例を述べると電気メスも出始めで、大型で高価なため大病院に一つか二つあるのみであった。選ばれた先生や手術のみ電気メスが使われていた。現在のように誰でもどこでも電メスは使える状況ではなかった。その状況下での手術適応は現在よりはるかに厳しいものであった。
時は流れ、検査手技・機器の発展で病態解明は進化し、手術手技・器械も発展し治療成績が向上すると手術適応は広がり数が増え、大手術となれば手術低侵襲化が叫ばれるのは当然のことである。

今回、竹内大作会長から講演を依頼され、後期高齢者の出る幕ではないとも考えたが、進歩の影で失われているものがあるのではないかという竹内会長の思いを受け引き受けることにした。

ここでは、過去に治療した症例を通して、その長期経過観察から得られた結果を提示し、その治療の思考過程や教科書が全てではない事実についての私見を述べたい。

竹内会長の狙いに沿い、学会参加者の今後の活動の一助となるならば幸いである。

野原　裕（のはら　ゆたか）

生年月日：昭和23年9月
学歴：　昭和42年　北海道大学医学進学課程　入学
　　昭和48年　　同上　医学部医学科　卒業
職歴：
昭和48年　北海道大学医学部整形外科学教室入局（研究研修医）
昭和53年　北海道大学医学部付属病院整形外科・助手
昭和58年　美唄（びばい）労災病院整形外科・部長
昭和59年　獨協医科大学越谷病院整形外科・助教授
昭和63年(1988) 9月より平成元年(1989)8月
　　海外留学：米国マイアミ大学整形外科
平成 3年11月 獨協医科大学越谷病院整形外科・教授
平成16年 4月 獨協医科大学越谷病院・副院長（平成18年3月まで）
平成18年 4月 獨協医科大学整形外科・主任教授　　2006年
平成19年 4月 獨協医科大学病院・副院長
平成23年 4月 獨協医科大学病院・院長（平成26年3月まで）
平成26年 4月 名誉教授　獨協医科大学　第110号
平成26年 4月 獨協医科大学・副学長（平成29年3月まで）
平成29年 4月 流山中央病院・名誉院長（令和4年12月まで）
令和 5年 1月～現在　レイクタウン整形外科病院・顧問
名誉教授：平成26年4月　　獨協医科大学　第110号

学位：博士（医学）：北海道大学 第3959号：先天性脊椎・脊髄奇形の実験的研究
学会名誉会員
Scoliosis Research Society
International Society for the study of the Lumbar Spine
日本整形外科学会　　日本脊椎脊髄病学会
日本脊髄障害医学会　　日本側弯症学会
日本脊椎インストゥルメンテーション学会
東日本整形災害外科学会　　関東整形災害外科学会
日本腰痛学会
全国学会主催：
平成7年　第4回 日本脊椎インストゥルメンテーション学会:東京
平成12年 第34回 日本側弯症学会:東京
平成20年 第16回 日本腰痛学会:東京
平成21年 第44回 日本脊髄障害医学会:東京
平成23年 第40回 日本脊椎脊髄病学会（web開催）:東京
平成24年 第22回 日韓合同整形外科シンポジウム:栃木（日光）
平成25年 第53回 関東整形災害外科学会:栃木（宇都宮）
平成26年 第10回IRSSD(国際脊柱変形学会):札幌
その他：AOSpine Japan Chapter 代表、
　　獨協学園理事・評議員　歴任

「高エネルギー外傷による脊椎・骨盤損傷に対する治療戦略
－骨粗鬆症を伴う脊椎・骨盤外傷も含めて－」

伊藤　康夫
神戸赤十字病院　整形外科、脊椎・四肢外傷センター

一般的に高エネルギー外傷においては、迅速な診断・評価と適切な急性期治療の成否が予後・最終ゴールに多大な影響を及ぼす。急性期に合併損傷の治療と合併症を防止しながら、脊椎・骨盤外傷に対する迅速な神経除圧と低侵襲再建術を行い、高負荷・高頻度・長時間の超急性期リハビリテーションへと繋げることが理想的である。この治療戦略を達成するには、脊椎外科医だけでなく、救急医、脳神経外科医、麻酔科医、多くのメディカルスタッフ等、多職種での24時間対応のチーム医療が必要となる。

さらに、わが国は急速な高齢化社会を迎え、高齢者の脊椎・骨盤損傷に遭遇する頻度が高くなっており、合併損傷ならびに合併症の併発で治療に難渋することも少なくない。乏しい予備能、多彩な併存症の管理、社会復帰へのゴール設定などを考慮して治療を進める必要がある。

高度救命センターを併設する当院での治療経験を踏まえ、脊椎・骨盤外傷例に対する急性期治療戦略の概要・意義を示し、増加する高齢者の脊椎・骨盤外傷に対する治療についても、現状と今後の課題を述べたい。

伊藤　康夫（いとう　やすお）

生年月日：1961年7月 満62歳
勤務先：神戸赤十字病院
職名：整形外科部長、脊椎・四肢外傷センター長
勤務先住所：〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通１－３－１
連絡先（勤務先）：Tel 078－231-6006

略歴：
岡山大学 昭和61年卒業
出身医局 岡山大学 整形外科学教室

平成 3年 3月	岡山大学大学院医学部博士課程（整形外科）修了
平成 3年 6月	神戸赤十字病院 整形外科 副部長
平成 4年 4月から	神戸赤十字病院 整形外科部長
平成15年	ニューヨーク州立シラキュース大学 fellow (Prof. Hansen Yuan)
平成21年 4月	岡山大学整形外科 臨床准教授 併任
平成25年 4月より	神戸赤十字病院 脊椎・四肢外傷センター長 併任
平成29年 3月より現在に至る	岡山大学整形外科 臨床教授 併任

専門医取得学会名：
日本整形外科学会 専門医、脊椎脊髄病医
日本脊椎脊髄病学会 指導医 専門医機構 専門医

学会における経歴：
中部日本整形外科災害外科学会 評議員
日本脊椎脊髄病学会（JSSR）評議員
日本脊髄障害医学会（JASCoL）評議員
日本インストゥルメンテーション学会（JSIS）評議員
最小侵襲脊椎治療（MIST）学会 理事
第10回最小侵襲脊椎治療（MIST）学会会長
関西 MISt 研究会 世話人
日本低侵襲脊椎外科学会（JASMISS）幹事
AAOS 会員

特別講演3

「非脊椎専門医へ伝えたい
－骨粗鬆症性椎体骨折の診断と早期外科的治療－」

星野　雅洋
医療法人苑田会苑田第三病院/苑田会東京脊椎脊髄病センター

骨粗鬆症性椎体骨折は高齢者のADL障害の一因となっている。

また、近年MRIの普及により非脊椎外科医においても比較的簡単に診断が可能となっている。

しかし、その見逃しや保存療法失敗例も多く椎体変形が高度になって疼痛の遷延、脊柱変形、神経症状の発現が問題になる症例も多い。

さらに治療という面ではまだまだ一定のコンセンサスがえられているわけでは無く、各種治療法が混在していると考える。

こういった状況の中で骨粗鬆症性椎体骨折をSubspecialityとする脊椎外科医が一般整形外科に対し以下の点で物足りなさを感じる。

- 非脊椎外科医、いわゆるかかりつけ医における椎体骨折の診断の遅れ
- 保存治療と外科的治療適応の判断
- 椎体骨折後の椎体変形の容認

関東MISTに参加される先生は脊椎の専門家や専門家を目指す医師であり、活動される地域において指導的役割を持った先生方である。本講演を参考に地域の一般整形外科医やかかりつけ医に対し骨粗鬆症性椎体骨折の診断や現在の治療の考え方を啓蒙していただきたいと考える。

星野　雅洋（ほしの　まさひろ）

生年月日：昭和33年7月
学歴：
昭和52年 4月　日本大学医学部入学
昭和58年 3月　日本大学医学部卒業
昭和58年 5月　第75回医師国家試験合格
（医籍276623号　昭和58年6月1日登録）
職歴：
昭和58年 6月　日本大学医学部整形外科学講座入局
平成 4年 7月　東松山市立市民病院（埼玉県）整形外科部長
平成15年 4月　東松山市立市民病院診療部長兼務
平成18年10月　苑田会　東京脊椎脊髄病センターセンター長
平成23年 4月　苑田会　苑田第三病院副院長兼務
令和元年 5月　苑田会　苑田第三病院院長、苑田会理事
専門：脊椎脊髄外科
骨粗鬆症性椎体骨折に対する外科的治療
低侵襲脊椎固定術
成人脊柱変形手術

専門医等：日本整形外科学会専門医
日本整形外科学会脊椎脊髄病医
日本脊椎脊髄病学会外科指導医
日本リハビリテーション医学会専門医
日本骨粗鬆症学会認定医
社会活動、学会等：
日本脊椎インストゥルメンテーション学会評議員
日本整形外科超音波学会幹事
骨粗鬆症性椎体骨折治療研究会世話人
椎体形成術研究会世話人
日本MIST学会理事
一般法人ISCP研究会理事
大江戸脊椎セミナー代表世話人
東京都整形外科勤務医会幹事
バルーンカイフォプラスティー（BKP）ファカルティー
賞罰：なし

MEMO

MEMO

MEMO